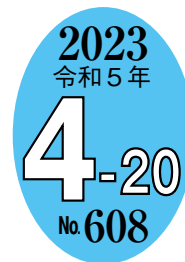




地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

景況調査レポート



小川村 山畑のヤマザクラ

「散花の ぱっぱと春は なくなりぬ」 一茶 句帖写

今春の長野市内のソメイヨシノの開花は、平年より2週間も早く、観測史上で最速だったそうです。

はるか彼方に、戸隠連峰と一夜山を望む、ここは小川村。山畑のヤマザクラ。こちらにも花が散り、気温が上がると、一足飛びに初夏が訪れそうな気配です。

「散桜 肌着の汗を 吹せけり」 一茶 七番日記

- 長野しんきん 景況調査レポート 2
- 企業アンケート「人手不足」① 6
- 生活者アンケート「コロナ禍の日常生活」① 9
- 北信濃 明治時代の風景 (13) 長野駅周辺 10

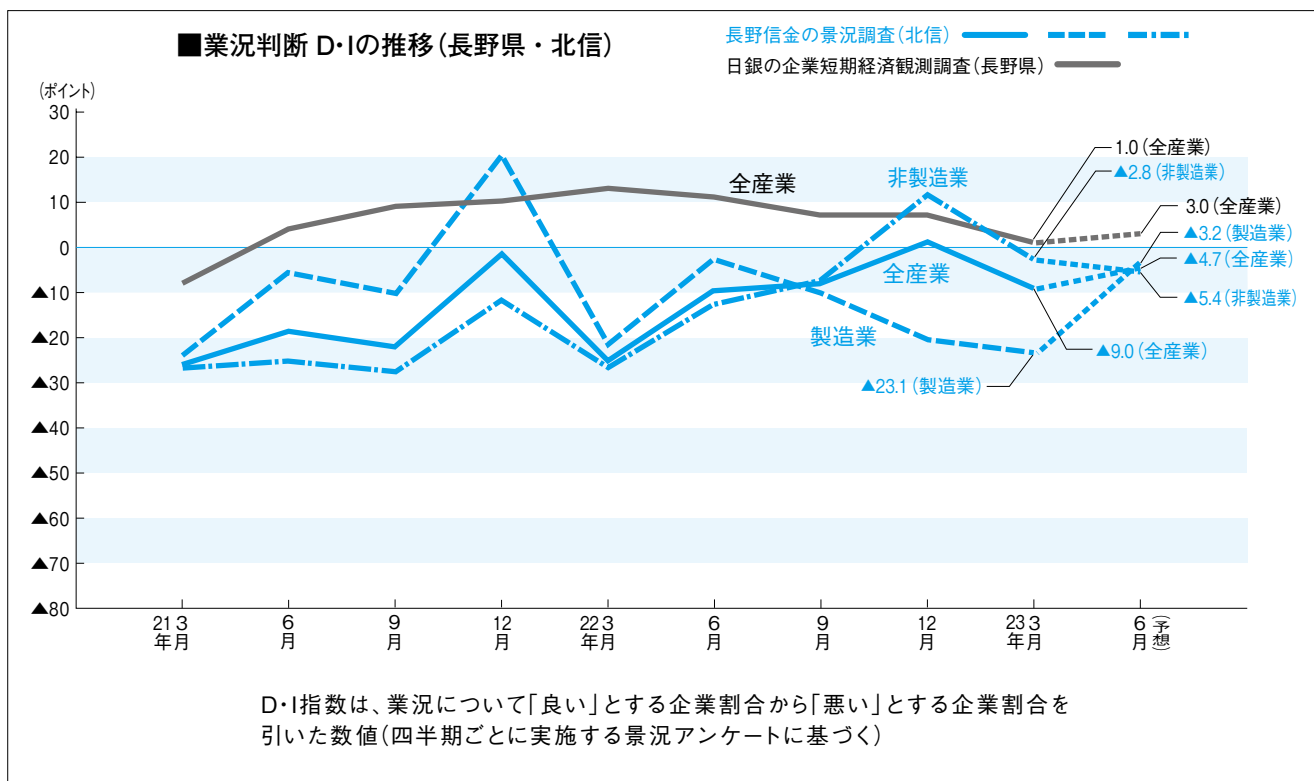
「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



これからも、ずっといっしょに、このまちで



◆長野県北信地区◆2023年1～3月期…景気の現状◇2023年4～6月期…景気の見通し



全産業+1 → ▲9 製造業・非製造業はともに悪化

2023年1～3月期の業況判断D-Iは、全産業で10ポイント悪化して▲9となりました。製造業は3ポイント悪化の▲23、非製造業は14ポイント悪化の▲3です。

2023年4～6月期の全産業の業況判断D-I(予想)は、4ポイント改善の▲5となりました。

◆北信地区の1月～3月期の業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	+1	▲9 (10ポイント悪化)	▲5
製造業	▲20	▲23 (3ポイント悪化)	▲3
非製造業	+11	▲3 (14ポイント悪化)	▲5

非製造業+11 → ▲3 全業種で悪化

非製造業の業種別業況判断D-Iは、建設業が+3(前期比▲11ポイント)、卸小売業が▲12(同▲14ポイント)、

◆非製造業の業種別業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	+11	▲3 (14ポイント悪化)	▲5
建設業	+14	+3 (11ポイント悪化)	+5
卸小売業	+2	▲12 (14ポイント悪化)	▲21
サービス業	+16	▲2 (18ポイント悪化)	▲5

サービス業が▲2(同▲18ポイント)となり、全業種で悪化しています。

◆売上高D-Iと収益判断D-I

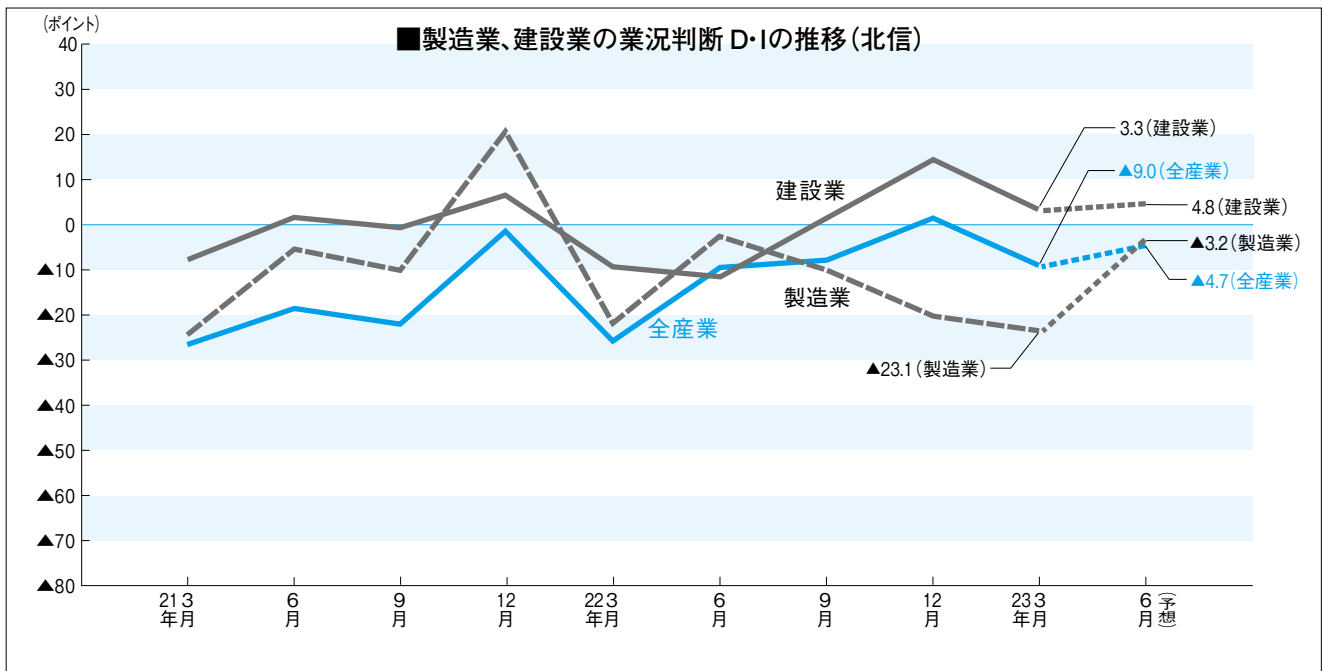
	売上高D-I(「増加」-「減少」)		収益判断D-I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	+13	▲14(悪化)	+3	▲21(悪化)
製造業	+1	▲20(悪化)	▲16	▲21(悪化)
非製造業	+18	▲11(悪化)	+11	▲21(悪化)

●北信地区の業況判断D-Iの推移

	2022年6月	9月	12月	2023年3月	6月(予想)
全産業	▲9.5	▲8.0	+1.4	▲9.0	▲4.7
製造業	▲2.8	▲10.0	▲20.3	▲23.1	▲3.2
非製造業	▲12.7	▲7.3	+11.4	▲2.8	▲5.4

[調査要領]

- 調査実施……2023年3月
- 調査対象企業(回収)
 - 製造業……66社
 - 建設業……63社
 - 卸小売業……43社
 - サービス業……44社
- 回収率……87.1%
- 従業員規模
 - 30人未満……76.9%
- 分析…D-I判断指数を中心に分析
- 合計……216社



製造業の景況

3期悪化して▲23に、来期は改善の予想

製造業の1～3月期の業況判断D・Iは▲23で、前期(▲20)に比べ3期悪化となりました。4～6月期は今期より20期改善の▲3の予想です。

(前期)	10～12月期	▲20
◆業況判断D・I	(今期) 1～3月期	▲23
	(来期) 4～6月期	▲3(予想)

◇業種別業況判断D・I
悪化 食料品・木材木製品・金属加工・一般機械・自動車部品

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲21(5期悪化)

「増益」割合	前期 18% → 15% (3期減少)
「減益」割合	前期 34% → 36% (2期増加)

◆現在の採算状況…横ばい

「利益確保」	前期 36% → 41% (5期増加)
「収支トントン」	前期 47% → 41% (6期減少)
「赤字」	前期 17% → 18% (1期増加)

企業からのコメント

- ☆★新型コロナによって、業界の市場が大きく様変わりした。売れる商品の変化に追い付くことが出来ない企業は淘汰される。(農産加工品)
- ☆★新型コロナもようやく下火となって、受注は増加傾向にあるが、部材の値上りと輸送コストの上昇で収益が圧迫されている。(精密機械)
- ★☆☆半導体関連は低迷し、パソコン組立でも月によって乱高下している。装置組立関連は3月以降から上昇している。(PC組立)

建設業の景況

11期悪化して+3に、来期は改善の予想

建設業の1～3月期の業況判断D・Iは+3で、前回(+14)に比べ11期悪化しています。4～6月期は今期より2期改善の+5の予想です。

(前期)	10～12月期	+14
◆業況判断D・I	(今期) 1～3月期	+3
	(来期) 4～6月期	+5(予想)

◇業種別 総合建設

前期	+30 → +10 (20期悪化)
土木工事	前期 ▲8 → ▲8 (横ばい)
建築	前期 +5 → ▲14 (19期悪化)
各種設備	前期 +33 → +27 (6期悪化)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲21(29期悪化)

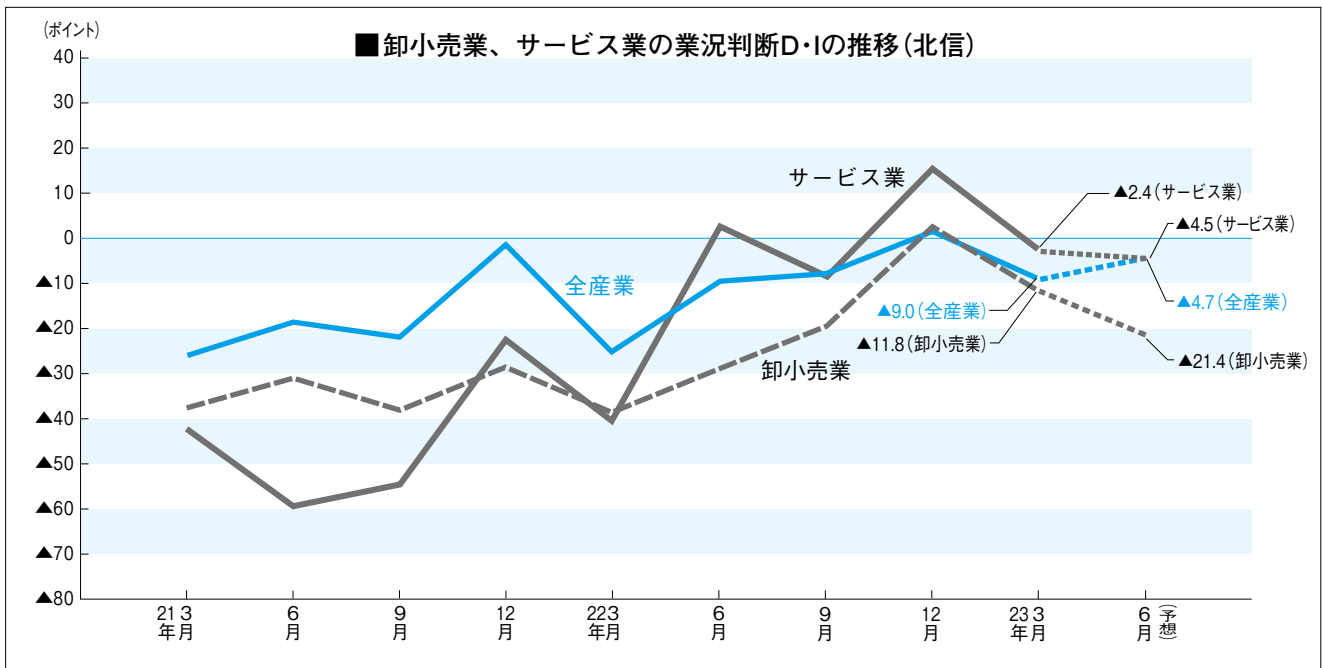
「増益」割合	前期 21% → 13% (8期減少)
「減益」割合	前期 13% → 34% (21期増加)

◆現在の採算状況…横ばい

「利益確保」	前期 54% → 52% (2期減少)
「収支トントン」	前期 43% → 44% (1期増加)
「赤字」	前期 3% → 5% (2期増加)

企業からのコメント

- ☆★県外は今後も工事量の確保が可能と思料。県内はビッグプロジェクトはあるものの、中程度の物件が少なく一定の稼働率確保に注視している。また、価格転嫁も今後の課題である。(内装業)
- ★公共工事(土木)は減少気味で、資材や燃料費が上昇している。民間事業は、ハウスメーカーの参入により激戦となっている。(総合建設業)



卸小売業の景況

14期悪化の▲12、来期も悪化の予想

卸小売業の1～3月期の業況判断D・Iは▲12で、前回(+2)に比べ14期悪化しました。4～6月期の業況判断D・Iは9期悪化の▲21の予想です。

	(前期)	10～12月期	+2
◆業況判断D・I	(今期)	1～3月期	▲12
	(来期)	4～6月期	▲21(予想)

◇業種別	卸売業	前期 +6 → ▲20 (26期悪化)
	小売業	前期 ±0 → ▲7 (7期悪化)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲35 (33期悪化)

「増益」割合 前期 21% → 5% (16期減少)

「減益」割合 前期 23% → 40% (17期増加)

◆現在の採算状況…改善

「利益確保」 前期 23% → 28% (5期増加)

「収支トントン」 前期 56% → 56% (横ばい)

「赤字」 前期 21% → 16% (5期減少)

企業からのコメント

☆★一般向けの販売は価格転嫁がされているが、消費者の“節約意識”が足かせとなり、結局、値引き等のイベントを実施せざるを得ない。(燃料販売)

★仕入価格の上昇が続いている。今後も収まる気配は全くなく憂慮している。(食料品)

★サービス業にとって、週休2日制の実施は難しい。(土産品)

サービス業の景況

18期悪化の▲2、来期も悪化の予想

サービス業全体の1～3月期の業況判断D・Iは▲2で、前回(+16)と比べ18期悪化しました。業種別では、輸送・タクシー・運輸が改善し、外食・観光・不動産が悪化しています。4～6月期の業況判断D・I(予想)は3期悪化の▲5です。

	(前期)	10～12月期	+16
◆業況判断D・I	(今期)	1～3月期	▲2
	(来期)	4～6月期	▲5(予想)

◇業種別業況判断D・I

サービス 前期 +14 → +14 (横ばい)

輸送 前期 ±0 → +33 (33期改善)

タクシー 前期 +33 → +100 (67期改善)

運輸 前期 ▲17 → ±0 (17期改善)

外食 前期 ▲11 → ▲13 (2期悪化)

観光 前期 +50 → ▲38 (88期悪化)

不動産 前期 +20 → ▲9 (29期悪化)

企業からのコメント

★乗務員のなり手がなく、このまま補充が出来ない場合、労務倒産となる恐れもある。(タクシー)

☆★荷動き等は回復しつつあるが、原油高騰の影響は続いており、先行き不透明な状況が継続している。(貨物運送)

☆★いわゆる「2024年問題」まであと1年。適正な運賃収受など、荷主企業との交渉が正念場となる。

(貨物自動車運送)

雇用情勢 1～3月期

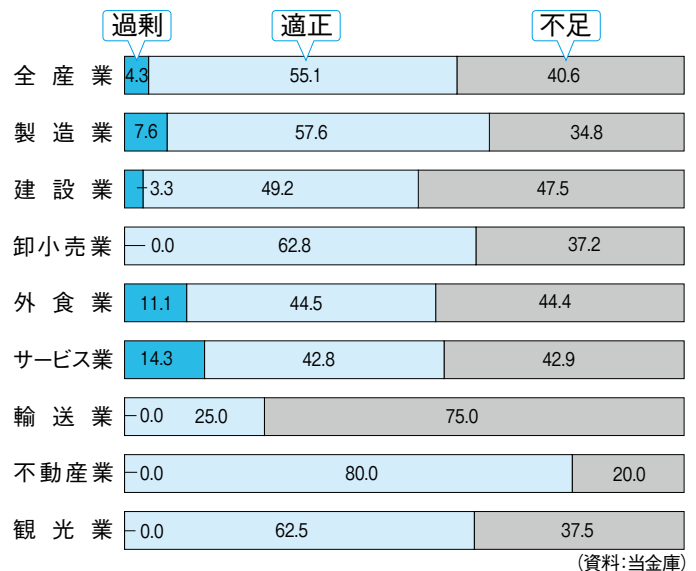
建設・サービス・不動産・観光が改善

従業員の過不足感(「過剰」-「不足」)は、全産業で▲36となり、前回(▲39)に比べ3割改善しています。

雇用情勢 (「過剰」-「不足」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)
全産業	▲38.9	▲36.3
製造業	▲25.7	▲27.2
建設業	▲45.9	▲44.2
卸小売業	▲30.3	▲37.2
外食業	▲33.3	▲33.3
サービス業	▲85.7	▲28.6
輸送業	▲70.0	▲75.0
不動産業	▲30.0	▲20.0
観光業	▲77.7	▲37.5

従業員の過不足感 (%)



資金繰り 1～3月期

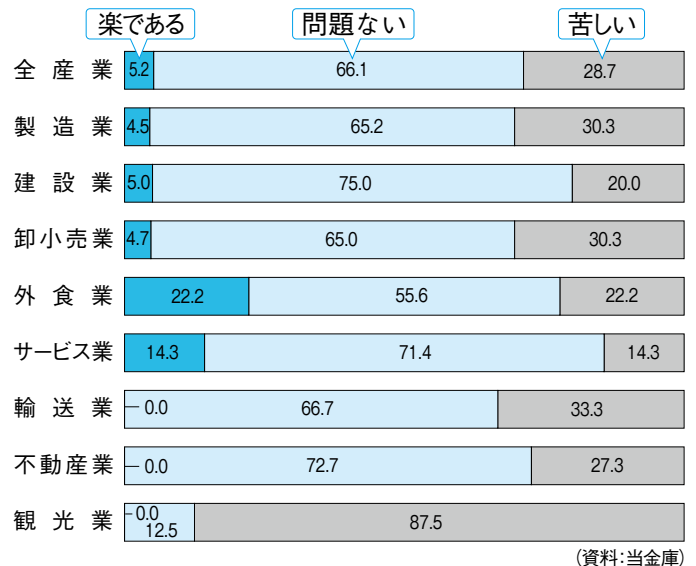
外食・サービス・輸送が改善

資金繰り状況判断(「楽である」-「苦しい」)は、全産業で▲24となり、前回(▲20)に比べ4割悪化しています。

資金繰り (「楽である」-「苦しい」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)	来期(4～6月)
全産業	▲19.8	▲23.5	▲18.6
製造業	▲21.4	▲25.8	▲21.8
建設業	▲14.1	▲15.0	▲10.1
卸小売業	▲25.6	▲25.6	▲18.6
外食業	▲20.0	±0	±0
サービス業	▲16.6	±0	±0
輸送業	▲40.0	▲33.3	▲44.4
不動産業	±0	▲27.3	▲10.0
観光業	▲20.0	▲87.5	▲75.0

資金繰り状況感 (%)



販売価格動向 1～3月期

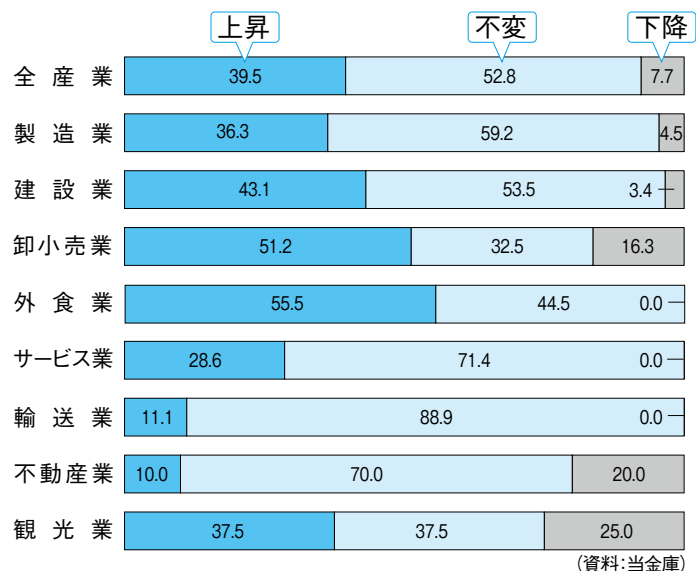
製造・外食・輸送が上昇

販売価格動向(「上昇」-「下降」)は、全産業で+32となり、前回(+35)に比べ3割悪化しています。

販売価格動向 (「上昇」-「下降」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)	来期(4～6月)
全産業	+35.2	+31.8	+34.8
製造業	+27.2	+31.8	+29.7
建設業	+45.2	+39.7	+39.7
卸小売業	+37.2	+34.9	+37.3
外食業	+50.0	+55.5	+55.5
サービス業	+42.9	+28.6	+57.1
輸送業	±0	+11.1	+11.1
不動産業	+11.1	▲10.0	+11.1
観光業	+60.0	+12.5	+37.5

業種別販売価格動向(対前期) (%)



従業員の過不足状況

「人手不足が深刻」10% 「やや人手不足」40%
 「適正な状態」48% 「人員過剰」2%

企業アンケート
 「人手不足」①
 2023年3月調査

人手不足による影響

「需要増への対応困難、機会損失」40% 「生産・売上等の減少」36%
 「人件費・外注費等のコスト増大」34% 「残業時間の増加」30%

従業員の過不足状況 「人手不足が深刻」10%、
 「やや人手不足」40%と合算すると半分の会社が人手不足。
 「適正な状態」48%、「人員過剰」2%でした。

人手不足による影響 「需要増への対応困難、機会損失」40%、
 「生産・売上等の減少」36%、「人件費・外注費等のコスト増大」34%、
 「残業時間の増加」30%、「工期・納期の遅れ」25%と深刻で、「支障なし」は3%でした。

聞きました。

「人手不足が深刻」は10%ですが、「やや人手不足」40%と合算すると50%。
 「適正な状態」は48%、「人員過剰」は2%でした。

従業員規模で見ると、30人未満の「適正な状態」(54%)は30人以上より28%高くなっています。
 30人以上は「人手不足が深刻」(14%)が6%、「やや人手不足」(52%)が16%、「人員過剰」(8%)が8%、それぞれ30人未満より高くなっています。

従業員の過不足状況

「人手不足が深刻」10%
 「やや人手不足」40% } 計50%
 「適正な状態」48%
 「人員過剰」2%

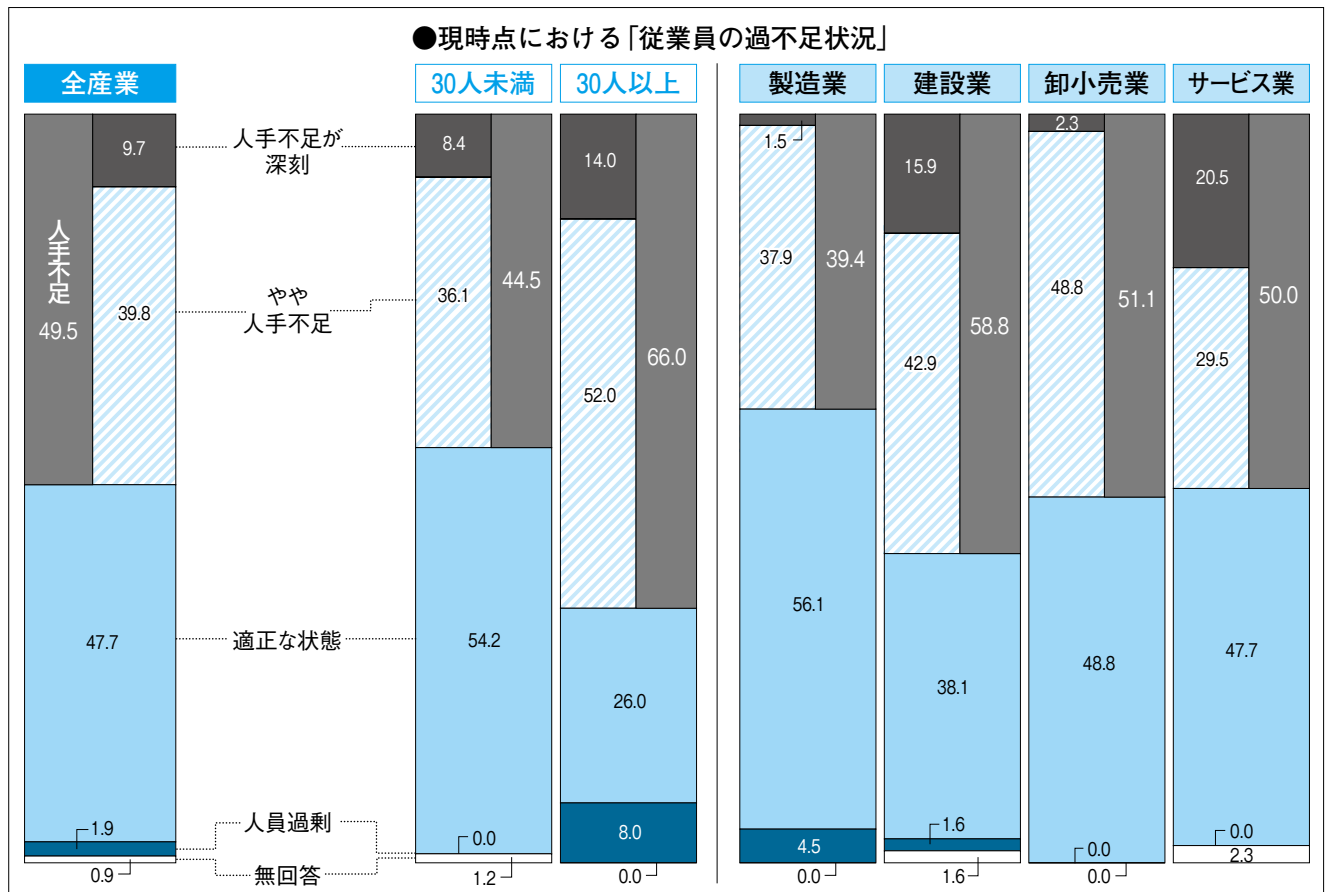
「現時点における従業員の過不足状況」について

業種別

「人手不足」建設業がトップ
 「適正な状態」製造業がトップ

◇4業種の状況

製造業 「人手不足が深刻」(1.5%)は他業種に比



べ最も低く、「適正な状態」(56%)と「人員過剰」(5%)は他業種に比べ最も高くなっています。

建設業 「人手不足が深刻」と「やや人手不足」を合わせた[人手不足](59%)は他業種に比べ最も高く、「適正な状態」(38%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「人手不足が深刻」(2%)は製造業に次いで低く、「やや人手不足」(49%)は4業種で最も高く、「人員過剰」(0%)はサービス業とともに、最も低くなっています。

サービス業 「人手不足が深刻」(21%)は他業種に比べ最も高く、「やや人手不足」(30%)と「人員過剰」(0%)は卸小売業とともに最も低く、「適正な状態」は48%になっています。

人手不足による影響

- 「需要増への対応困難、機会損失」40%
- 「生産・売上等の減少」36%
- 「人件費・外注費等のコスト増大」34%
- 「残業時間の増加」30%
- 「工期・納期の遅れ」25%
- 「利益減少」14%

『「人手不足」と答えた50%の企業に、その影響』

について聞きました。

「需要増への対応困難、機会損失」(40%)がトップで、以下「生産・売上等の減少」(36%)、「人件費・外注費等のコスト増大」(34%)、「残業時間の増加」(30%)、「工期・納期の遅れ」(25%)、「利益減少」(14%)が2ケタとなり、「支障なし」は3%という結果となりました。

従業員規模で見ると、30人未満は「生産・売上等の減少」(41%)が16票、「工期・納期の遅れ」(28%)が10票、それぞれ30人以上より高く、30人以上は「需要増への対応困難、機会損失」(49%)が12票、「残業時間の増加」(42%)が18票、それぞれ30人未満より高くなっています。

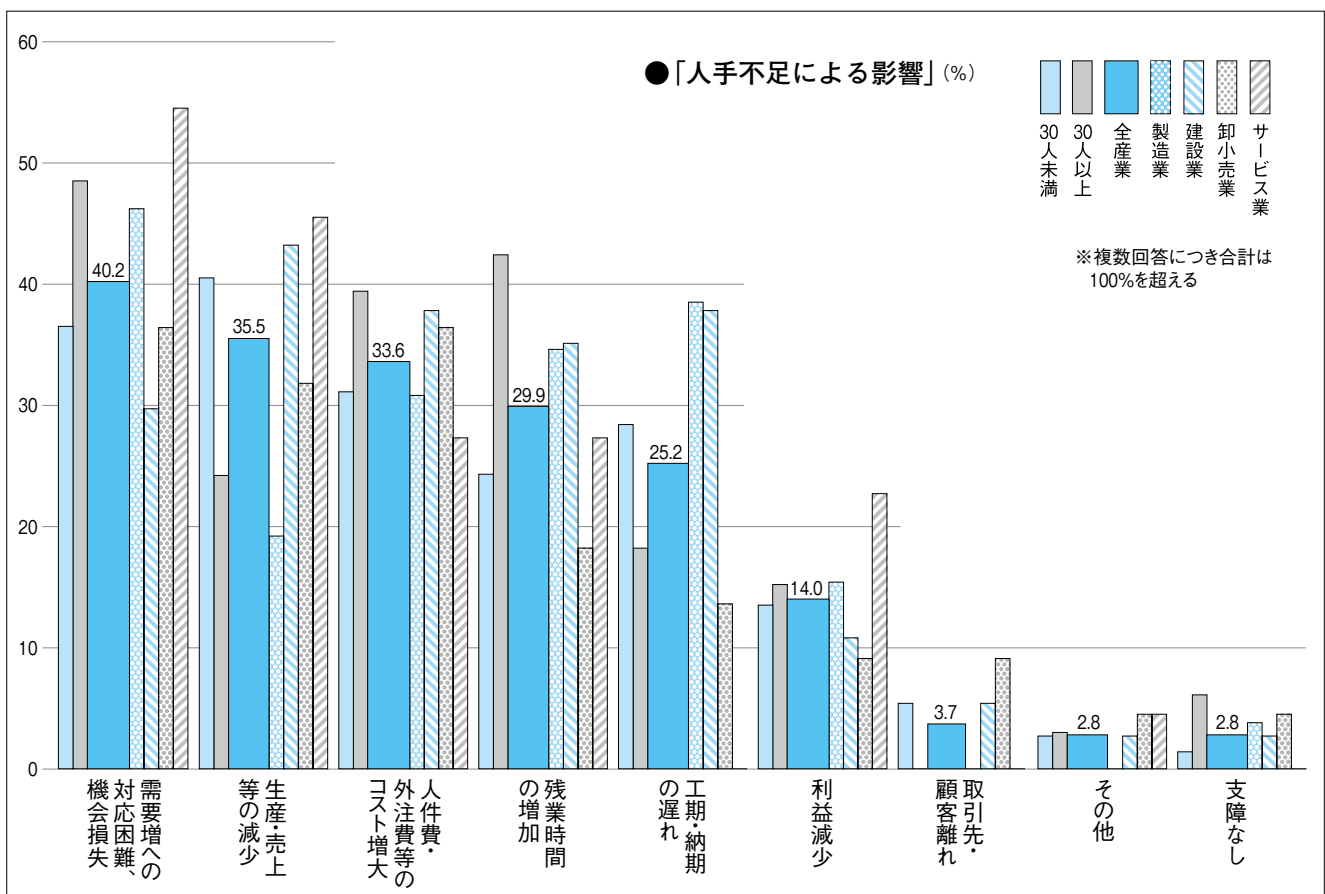
業種別

サービス業は「4項目」でトップ

◇4業種の状況

製造業 「工期・納期の遅れ」(39%)は他業種に比べ最も高く、他方「生産・売上等の減少」(19%)は他業種に比べ最も低く、「取引先・顧客離れ」(0%)は、サービス業とともに低くなっています。

建設業 「人件費・外注費等のコスト増大」(38%)と「残業時間の増加」(35%)は他業種に比べ最



も高く、他方「需要増への対応困難、機会損失」(30%)と「支障なし」(3%)は、他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「取引先・顧客離れ」(9%)と「支障なし」(5%)は他業種に比べ最も高く、他方「残業時間の増加」(18%)と「利益減少」(9%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「需要増への対応困難、機会損失」(55%)、「生産・売上等の減少」(46%)、「利益減少」(23%)は他業種に比べ最も高く、他方「人件費・外注費等のコスト増大」(27%)、「工期・納期の遅

れ」「取引先・顧客離れ」「支障なし」とともに(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次回は「人材を確保する上での問題点」と「人手不足の原因」を予定

[調査要領]

実施期日：2023年3月上旬～中旬

実施方法：第191回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収216社(製造業66社、建設業63社、

卸小売業43社、サービス業44社)

うち従業員30人未満166社(76.9%)

「雇用情勢や人材確保」に関する企業からのコメント

製造業

◇中小企業においては、“育児休業”取得中の補充のための「人材確保」も重要な課題となっている。

(各種プラスチック製品)

◇マクロ的視点では“人材不足”かもしれないが、実際は地域や年齢・スキルなどで大きな片寄りがあると思う。

(樹脂ケース)

◇時給の上昇により人件費が増えているが、求人募集をしても、土日出勤のあるサービス部門には応募者が少ない。また、夫の扶養家族のパートタイマー人材は、働く時間が少ないため増員せざるをえない。

(味噌製造販売)

◇求人募集をしても、なかなか応募がないのが現状だが、さらに、もっと自社の魅力を積極的に発信していきたい。

(シール)

◇給料の値上げ等が言われているが、労働時間の制約をしながら給与を上げることには矛盾がある。労働時間を自由にすることが、日本の国力の向上につながると思う。

(農産加工品)

◇事業規模や業種によって様々であるが、“人材不足”は共通していると思われる。

(自動車部品)

建設業

◇建設業のイメージアップを図るためには、現場での完全週休2日制がベストだが、現実には厳しい。若手技術者確保のために、発注者や施主の理解を得る必要がある。

◇ハローワークから人材の紹介を受けたが、長続きしなかった。就職希望者と実際の当社における作業に乖離があったと思われる。

◇“ライフワークバランス”を重視することが人材確保には重要である。また、若者のネットワークを利用するのも得策だろう。

(以上総合建設業)

◇採用者は新卒・中途を含めて例年の半数以下。ま

た、入社1～2年の若年者の退職も目立つ。その中で、“リファラル(社員紹介採用)”制度を今年度から導入している。

(内装仕上工事)

◇“人手不足”により社員の高齢化が進んでおり技術の継承と業務の存続に危機感を覚える。

◇給与アップをしたくても、資材や経費の高騰で全体を見ると出来ない状況。

(以上建築業)

卸小売業

◇従業員には、理想として年間140日の休みを与えたいが、それではサービス業は成り立たないのが現状である。

(土産品店)

◇若年層の人材確保は急務だが、売上減の今、給与等の人件費を増加することは難しく、人材の確保は出来そうもない。

(花鉢・植木卸)

◇社員の高齢化が目立つ。特に整備部門のスタッフに若手の人材がないのが、将来的にネックとなるだろう。

(自動車整備)

◇あらゆる媒体を使って求人広告を出しても、応募者が少なく人材は集まらない。

(食材・飲料卸)

サービス業

◇若者のトラックドライバー志願者が非常に少ないことが、先々において会社の戦力低下に確実につながることが懸念される。

(トラック輸送)

◇これからますます人手不足となる中、賃金アップが重要であると思う。

(不動産)

◇飲食業の店舗は、特に働き手不足になると大問題なので、外国人の雇用も積極的に考えていかなければならない。

(食堂)

◇就業規則上の定年は60歳だが、本人と協議の上、賃金等の労働条件は全く変更せず、継続して雇用している。

(日本料理)

◇同一労働・同一賃金の件だが、労働年数も能力も違う人の賃金が同等というのはおかしな話。(料亭)

◆4年目の現在も「不安を感じたり困っていること」

「物価の上昇」74% 「いつまで続くか見通しが不透明」44% 「交流機会の減少」25%

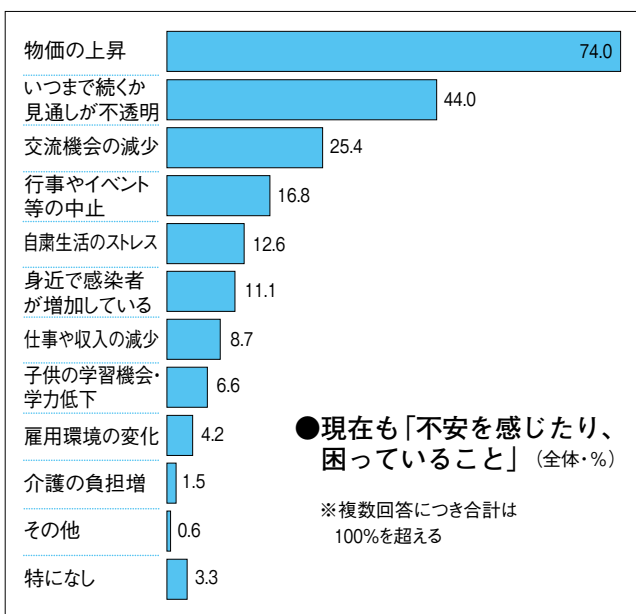
◆今もなお、「自粛・延期」していること

「旅行やレジャー」「飲み会」各45% 「会社の懇親会」23%

「4年目を迎えた現在も不安を感じたり、困っていること」を聞きました。

全体の上位3項目を見ると、「物価の上昇」が74%、「いつまで続くか見通しが不透明」が44%、「交流機会の減少」が25%となりました。

男女別で見ても、世代別で見ても全体と同様の結果でした。



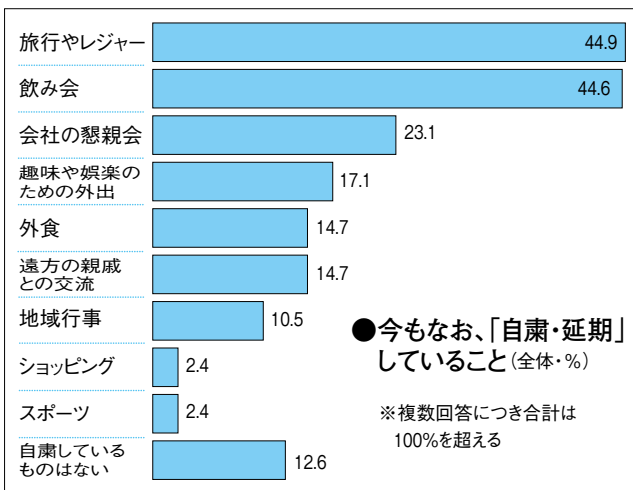
「今もなお、自粛・延期していることは何か」を聞きました。

全体の上位3項目は、「旅行やレジャー」と「飲み会」が同率の45%、「会社の懇親会」が23%となり

ました。

男女別で上位を見ると、男性は「飲み会」「旅行やレジャー」「会社の懇親会」、女性は「旅行やレジャー」「飲み会」「趣味や娯楽」の順となりました。

世代別で見ると、10～20代は「旅行やレジャー」「飲み会」「趣味や娯楽」の順になり、30～40代は全体と同じ結果で、50代以上は「飲み会」「旅行やレジャー」「会社の懇親会」の順となりました。



[調査要項]

実施期日：2023年3月上旬～中旬

実施場所：長野信用金庫本店窓口

調査数：334人(男性198人・女性136人)

調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「新型コロナ感染症に対する意識の変化」に関する生活者からのコメント

◇誰かが率先していかないと、日本人はいつまでもマスクをし続けると思い心配です。

◇すでに感染したので全く気にしない。(以上20代女性)

◇時が経つにつれ、世論と同じく、新型コロナに対する恐怖心は薄らいできている。(20代男性)

◇友人や知人との交流で、感染症への意識が違うことが分かり、なんとなく疎遠になったことがあった。「5類」になっても感染力が変わる訳ではないので、気をつけていきたいと思う。(30代女性)

◇コロナ禍の当初は感染対策にとっても気を付けていたが、今はほとんど気にならない。(30代男性)

◇両親が高齢のため、日々の感染対策を怠らないようにしています。(40代男性)

◇感染症対策として、意識することの順番を決め、省くことも考えたい。常に新しい時代に対応していく。◇マスクの着用は結構だが、子どもの成長の妨げになることは早くやめて欲しい。(以上50代男性)

◇コロナは「風邪の一種」という認識に、社会全体が早々に落ち着くことが必要だと思う。(60代以上女性)

◇そろそろ通常の生活に戻りたいと考えているが、新型コロナの再発症だけは注意したい。(60代以上男性)

北信濃 明治時代の風景

(13) 長野駅周辺

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



今年度は、明治30年(1897)10月に出版された善光寺周辺の案内書、『善光寺^{ひとり}独案内』の挿絵を紹介します。すでに活版印刷の時代になっていたのですが、これは長野市で出版された最後の木版本です。今回は長野駅周辺の図です。

絵を読む

長野駅付近を東側上空から見た図です。右上に「三其」とあるのは「其^{その}三」で、善光寺方面から続く絵の3番目という意味です。

中央に「長野停車バ」(長野駅)があり、右下から左上に線路が続いています。左上に煙を吐きながらやって来る列車が描かれていますが、よく見ると右下にも駅に入ろうとする列車があります。駅にも停車中の列車が描かれていますが、先頭は跨線橋のようなものに隠れて見えません。

駅の東側には煙の上がる建物が密集しています

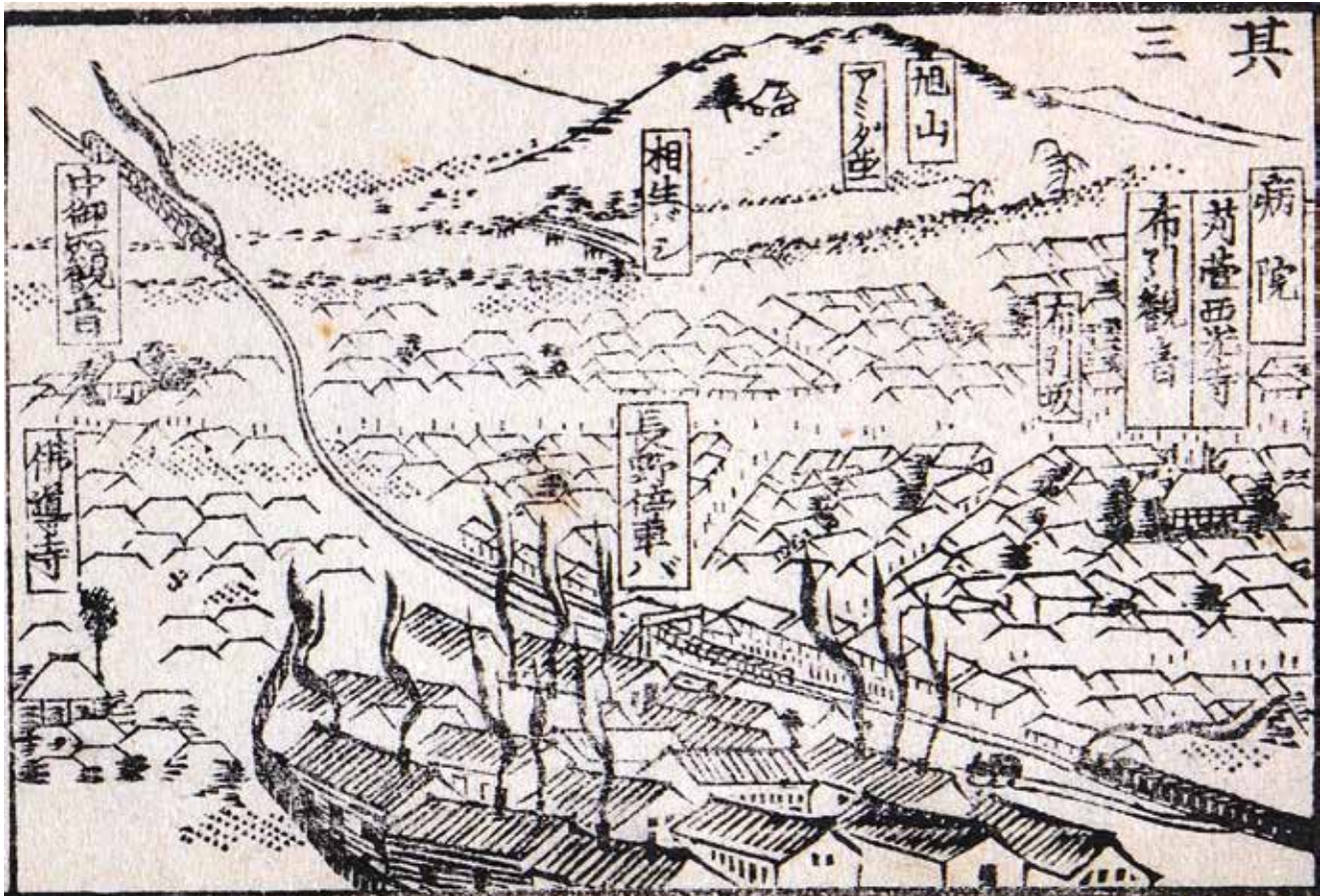
が、これは鉄道工場です。工場への引込線のようなものも描かれています。駅の南東側は芹田村で、「中御所観音」と「仏導寺」があります。

駅の北西側には市街地が広がっていますが、「長野停車バ」の「長」付近には左右(南北)に道路が続いています。これは旧北国街道で、現在は末広町交差点から北が拡幅されて中央通りとなっています。

絵の上部には「旭山」の麓を流れる裾花川が描かれていて、「相生バシ」が架かっています。

長野駅

長野駅は明治21年(1888)5月1日に開業しました。4月10日から善光寺では御開帳が始まっていて、その最中の開業となりました。その時の鉄道は長野駅～直江津駅間のみでしたが、その年の12月には軽井沢駅まで延伸されました。明治26年(18



『善光寺独案内』より長野駅周辺の図

93)には最後まで残った軽井沢駅～横川駅間が開通して、長野県は東京と鉄道で結ばれました。この絵はそれから4年後の、上り・下りの列車が出入りする長野駅の姿です。

鉄道工場

長野駅に併設された鉄道工場は、鉄道局長野出張所器械場として、明治23年(1890)に創業しました。5棟(煉瓦造り2棟)の建物で120人が働く、当時としては大工場でした。鉄道工場と呼ばれるようになったのは、明治26年(1893)からです。

この工場は手狭になったため東側に拡張され、1万4千坪(4万6千平方メートル)の敷地に5棟の煉瓦造りの建物が建ち並ぶ大工場が明治37年(1904)までに竣工しました。この絵は明治30年ですが、すでに工場は拡張されているようです。

鉄道工場は戦争中には工機部と名称を変えましたが、昭和20年(1945)8月13日の長野空襲で爆撃を受け、職員8人が犠牲になりました。戦後の昭和22年(1947)10月には、昭和天皇の行幸がありました。

この鉄道工場も昭和44年(1969)に西和田に移転し、赤煉瓦の建物群も取り壊されてしまいました。

相生橋

裾花川に架かる相生橋は江戸時代は渡し場で、善光寺門前町の西の入口でした。明治8年(1875)に初めて橋が架けられ、相生橋と名付けられました。現在の橋は昭和10年(1935)に架け替えられたものです。

阿弥陀堂

「旭山」中腹の平柴に「アミダ堂」があります。江戸時代から不動堂などがありましたが、明治26年(1893)に阿弥陀堂として再興されました。この年に長野市県町で生まれたのが童謡「夕焼け小焼け」の作曲者草川信で、この寺の鐘は往生寺(西長野



長野駅東口の栗田緑地帯に残る鉄道工場の赤煉瓦

往生地)の鐘とともに、草川信が聞いた「夕焼け小焼けの鐘」とされています。

かるかや山西光寺と布引き観音

絵の右上に「苺萱(山)西光寺」と「布引観音」があります。「牛に引かれて善光寺参り」といえば、小諸市の布引観音(釈尊寺)が有名ですが、この『善光寺独案内』には知られていない、次のような地元の「牛に引かれて善光寺参り」の伝説が書かれています。

昔、仏導寺(若里)の近くに、スミという不信心な女が住んでいた。ある日布をさらしていると、牛が現れて角に布を引っかけて走り出した。スミは牛を追いかけて善光寺に来て、信仰に目覚めた。この牛は、かるかや山西光寺前の坂(布引坂)の観音堂の観音の化身だった。スミは西光寺の住職の弟子となって妙蓮尼と名乗り、この観音を守って一生を終えたという。

長野病院

右上にある「病院」は、現在のJ A長野県ビル(北石堂町)の場所にあった市立長野病院です。明治37年(1904)年に日本赤十字社に譲渡され、日本で最初の赤十字病院となりました。

5月号は「問御所・新田町・西後町周辺」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

◆コロナ禍4年目「日常の消費行動」

「インターネットでの商品購入が増えた」43%
 「店舗でのキャッシュレス決済の利用が増えた」40%
 「店舗でのセルフレジ利用が増えた」24%

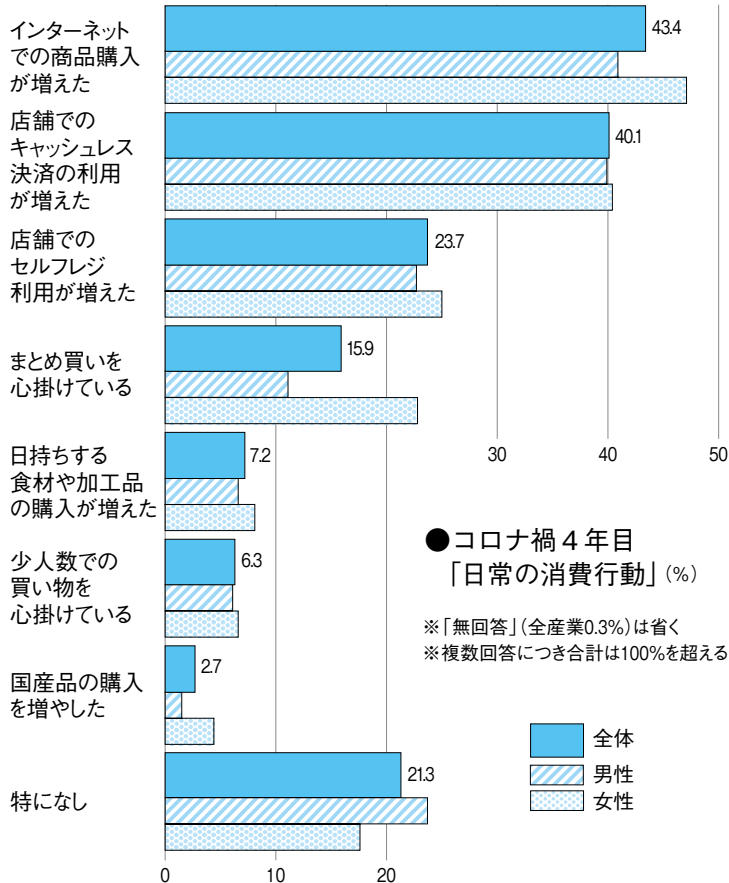
「コロナ禍も4年目ですが、消費行動の変化はあるか」を聞きました。

1位は「インターネットでの商品購入が増えた」43%、2位は「店舗でのキャッシュレス決済の利用が増えた」40%、3位は「店舗でのセルフレジ利用が増えた」24%、4位は「まとめ買いを心掛けている」16%、5位は「日持ちする食材や加工品の購入が増えた」7%、「特になし」は21%となっています。

男女別で1位～5位を見ると、男性、女性ともに全体とほぼ同様の結果でした。

世代別で見ると、10～20代は1位～3位までは全体と同じですが、4位は「まとめ買いを心掛けている」と「少数での買い物を心掛けている」が同率になりました。30～40代、50代以上はともに全体と同様の結果になっています。

〈当金庫・2023年3月調査〉



●みなさまの税務相談のご案内 [5月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
5月 2日 火	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	5月 19日 金	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)
9日 火	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	23日 火	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
11日 木	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	24日 水	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
12日 金	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	26日 金	本店営業部	
16日 火	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)	30日 火	本 部	
17日 水	大豆島支店 (長池支店)		31日 水	本 部	

